

豊中市文化財調査報告 第46集

# 穂積遺跡第14次・15次 発掘調査報告

— 豊中市南部における縄文海進期の基礎的研究 —



1999

豊中市教育委員会

豊中市文化財調査報告 第46集

## 穂積遺跡第14次・15次発掘調査報告

---

—豊中市南部における縄文海進期の基礎的研究—

平成11年（1999年）3月  
豊中市教育委員会

## 刊行にあたって

服部西町の地下数メートル、そこには突然、「縄文の海」の世界が広がっていました。黒っぽい色をした地層の中に無数にちらばる白い貝の化石。誰もがこの情景に目を奪われたことでしょう。市民の方々にぜひともこの素晴らしい世界を実感していただきたい...。私たちのこの想いは現地説明会での体験発掘という新しい試みとして実現することになりました。

当日は雨天にもかかわらず、多くの方々がこの行事に参加されました。足もとは長靴、手にはスコップをにぎりしめ、今か今かと順番を待ちきれない様子。どうも、いつもの現地説明会とはおもむきが異なるようです。それもそのはず、今回は遺跡の中へ立ち入れるのみならず、発掘を体験でき、採集した貝化石を持ち帰ることができるというのですから。

試行錯誤のくりかえしの中で様々な好条件にめぐまれながら、実施されることになった体験発掘ではありますが、私たちにとっても非常に感動的で印象深い行事でありました。参加された方々の笑顔や歓声をはげみに、今後もこうした機会ができるだけ増やしてまいりたいと考えております。

一方、現地調査から6年を経て、ようやく調査報告書を刊行するはこびとなりましたが、この間には現地調査の時には確認できなかった新事実が、整理作業、自然科学分析などを経て統合と明らかにされてきました。これらの積み重ねによって、服部西町周辺は縄文時代にはどのような環境だったのか、また、どのようにして現代に至ったのかが、おぼろげながらも復原できるようになりました。縄文人のくらしをさせた豊かな農中の自然。現代人の私どもが抱える環境問題を解くカギは、実はこのような歴史の中に秘められているのかもしれません。

このたび刊行する当報告書が、今後の専門的な調査・研究活動をささえる基礎資料として活用されることはもちろん、地域にくらす市民の方々にとって多くの情報をもたらし、郷土の資料として様々な場面において役立つことを願ってやみません。

最後になりましたが、現地での発掘調査および当報告書の刊行にあたり、大阪市立自然史博物館の皆様方にはご多忙にもかかわらず、ひとかたならぬご指導とご尽力をいただき、感謝の念にたえません。また、調査の労をお取りくださいました亥野田長をはじめ、近隣にお住いの方々、当市空港周辺整備室ならびに関係されたすべての皆様方に対しまして厚くお礼申しあげます。

平成11年（1999年）3月

豊中市教育委員会  
教育長 栗原有史

## 例　　言

1. 本書は龜中市営コミュニティ住宅建設に伴って、大阪府豊中市服部西町4丁目230—5、服部寿町3丁目435—2において実施した、穂積遺跡第14次、15次発掘調査の報告書である。(調査時の遺跡略称は各々HZ-14、HZ-15であるが、現在の表記ではHZMを使用している。)

2. 現地調査は第14次調査を平成4年(1992年)10月19日～平成5年(1993年)3月31日まで、第15次調査を平成6年(1994年)2月21日～平成6年(1994年)3月7日まで行なった。

3. 各調査は、龜中市 都市整備部 空港周辺整備室の依頼によって穂積遺跡調査団が編成され、実施された。また、龜中市教育委員会 社会教育課は現地調査への指導と協力を行なった。

4. 現地調査は、穂積遺跡調査団 団長 亥野 強氏(神戸国際大学・神戸山手女子短期大学非常勤講師／日本考古学協会員)が監督し、龜中市教育委員会 社会教育課 清水 勉が現地指導を行なった。また、鶴文海成勝以下の調査については、大阪市立自然史博物館 第四紀研究室 郡須尊柳氏(学芸課長代理・現係長)、石井久夫氏(主任学芸員)との協力体制で実施した。

5. 現地での発掘作業参加者は以下にあげるとおりである。なお、付写真掲載の現地説明会会場での記録写真、ビデオ撮影に関しては竹谷が行ない、第1回発掘調査の遺跡復原図は古村が制作した。

竹谷俊彦、水野 駿、西沢博和、今村 信、吉村達夫、中村吉洋、藤井信之、岡林孝之、玉田 武  
追田 博、袖賀一郎、高見尚征、浜中信明、吉田巖一郎、白嶽屋和正、平山山美子

6. 出土遺物の整理作業は、考古資料を豊中市教育委員会 社会教育課嘱託職員 木村 淳の指導のもと、郷土資料室にて、漁野しは、白川万記子、川島勝子、井畑幸子、前川紀呂美が行なった。また、本書掲載図の作成にあたって、豊中市教育委員会 社会教育課嘱託職員 川村慎也、白川万記子の助力を得た。

7. 本書の作成にあたっては、日次に示すとおり執筆を分担し、編集については各執筆者と協議の上で、郡須氏の助言のもと、清水が取りまとめる形で行なった。また、自然科学分析等の試料は郡須氏、石井氏、清水が現地で採取し、鑑定・分析等の実作業については以下に示すとおりに分担、実施した。

貝類及び動物化石	大阪市立自然史博物館 第四紀研究室 石井久夫氏
魚類化石(硬骨魚綱)	大阪市立自然史博物館 動物研究室 浦戸岡清峰氏
(軟骨魚綱)	海遊館 別育展示部 西田清徳氏
花粉分析及び植物遺存	総合科学(株) 水谷勝彦氏
珪藻分析	近畿大学 医学部 生物学研究室 後藤敏一氏
火山灰分析	奈良女子大学 理学部 生物学教室 清水 畏氏
材化石年代測定	大阪市立大学 大学院 理学研究科 片桐香子氏
貝化石年代測定	鳥取大学 水域環境研究センター テレデザイン・ジャパン(株)
粒度分析	豊中市教育委員会 清水 勉・服部聰志

8. 調査の実施と本書の作成にあたり、梶山彦太郎氏(故人)、四天王寺圓融仏教大学名誉教授 藤沢一氏、大阪市立自然史博物館 山西良平氏、(財)大阪府文化財調査研究センター 福岡澄男氏、藤田憲司氏、江浦 洋氏、合田幸美氏、井上智博氏、(財)大阪市文化財協会 趙 哲湧氏、岡村謙行氏、久保和士氏、寝屋川市教育委員会 堀山則之氏、(財)災害科学研究所 中野吉次郎氏より、ご指導、ご助言を、また、当市空港周辺整備室、市長公室広報課、下水道部、建築部、工事関係者ならびに近隣にお住いの方々には多くご支援とご協力をいただいた。ここに銘記して謝意を表す。

9. 現地調査と報告書の記述に際して、堆積層の記録及び遺物の観察には『新版 堆塚土色帖』(日本色研事業株式会社)を用い、標高はT.P.(東京湾平均海面水位)で表記した。また、方位は特に注記しない限り、座標北(第VI座標系)で表示している。

10. 当調査に関わる遺物、写真・カラースライド、図面等は、分析にかかるものを除いて、豊中市教育委員会 社会教育課 文化財保護係 [TEL 06(6858)2581]において保管している。広く活用されることを希望する。

## 目 次

刊行にあたって (豊中市教育委員会 教育長 栗原由史)

### 例 言

第Ⅰ章 緒 言 (穂積遺跡調査團 団長 宮野 弘) .....	1
第Ⅱ章 遺跡をとりまく諸環境 .....	5
第1節 地質環境 (大阪市立自然史博物館 館長 那須孝悌) .....	7
第2節 歴史環境 (豊中市教育委員会 清水 篤) .....	11
第Ⅲ章 調査に至る経緯と経過 (清水 篤) .....	17
第1節 調査に至る経緯 .....	19
第2節 調査の経緯と調査方法 .....	20
第Ⅳ章 基本層序 (那須孝悌・清水 篤) .....	23
第1節 穂積遺跡中心部の層序 .....	25
第2節 第14・15次調査地点の層序 .....	33
第3節 穂積遺跡の標準的な層序 .....	37
第Ⅴ章 近世～弥生時代の遺構と遺物 (清水 篤) .....	41
第1節 檜出遺構 .....	43
第2節 出土遺物 .....	51
第VI章 紋文海成層の調査 .....	61
第1節 粒度分析 (清水 篤) .....	63
第2節 出土遺物 (清水 篤) .....	71
第3節 動物遺体 .....	77
3-1. 硬骨魚綱 (大阪市立自然史博物館 動物研究室 波戸岡清峰) .....	77
3-2. 軟骨魚綱 (海遊館 培育展示部 西田清徳) .....	79
3-3. 軟体動物 (貝類) (大阪市立自然史博物館 第四紀研究室 石井久夫) .....	83
3-4. その他の無脊椎動物 (石井久夫) .....	96
第4節 植物遺体 (総合科学株式会社 水谷隆彦) .....	99
第5節 花粉・珪藻分析 (花粉及び珪藻統括・水谷隆彦) .....	100
(珪藻第14次・近畿大学 農学部 生物学研究室 後藤敏一) (珪藻第15次・奈良女子大学 理学部 生物学研究室 清水 覧)	
第6節 火山灰分析 (大阪市立大学 大学院 地理学研究科 片岡香子) .....	163
第7節 年代測定 (清水 篤) .....	167
第VII章 穂積遺跡と縄文時代の豊中 (那須孝悌・清水 篤) .....	171
付 章 穂積遺跡の現地説明会 (清水 篤) .....	181

英文目次

報告書抄録

## 挿図目次

### 第二章 挿図

- 千里丘陵西部の地質図 7
- 豊中周辺地域の地図 8
- 穂積遺跡の既往の調査地点 11
- 豊中市内の遺跡分布図 12

### 第三章 挿図

- 服部西部地区コミュニティ住環境  
整備事業計画 地図割り図 19
- 調査区と設定グリッド 21

### 第四章 挿図

- <sup>14</sup>C年代試料採集地点の地質状況図 26
- 穂積遺跡第18次調査地点 堆積層柱状模様図 27
- 穂積遺跡中心部の大別基本層序 28
- 第14次調査地點 調査区西壁断面図 29-30
- 第14次調査地點 調査区北東部の  
堆積層状図 34
- 第14次調査地點 調査区南東部の  
堆積層柱状図 35
- 第15次調査地点の堆積層柱状模様図 36
- 穂積遺跡における東西方向の標準的な  
層序の対応関係 38

### 第五章 挿図

- 第14次調査地點 C13グリッド付近検出遺構  
平面図 (1:40)・断面図 (1:20) 44
- 第14次調査地點 A1グリッド付近検出遺構  
平面・断面図 (1:40) 45
- A1グリッド造物断面図 (1:20) 46
- 第14次調査地點 A1グリッド付近自然路  
遺物出土状況図 (1:30) 47
- 第14次調査地點 出土遺物1 (A1グリッド・  
基本層序第IV層) (1:3) 50
- 第14次調査地點 出土遺物2  
(基本層序第II層) (1:3) 52
- 第14次調査地點 出土遺物3  
(基本層序第II層) (1:3) 53
- 第14次調査地點 出土遺物4  
(基本層序第II層) (1:3) 54
- 第14次調査地點 出土遺物5  
(基本層序第II層) (1:3) 55
- 第14次調査地點 出土遺物6  
(基本層序第II層) (1:3) 56
- 第14次調査地點 出土遺物7  
(基本層序第II層) (1:3) 57

### 第六章 挿図

- 粒度組成(重量比) 65
- 各試料の粒度組成(重量分布) 1 66

### 第三章 挿図

- 各試料の粒度組成(重量分布) 2 67
- 各試料の粒度組成(重量分布) 3 68
- 绳文時代 出土遺物(基本層序第V層)  
(1:2) 72
- 鶴巣の模式図および出土した骨の  
推定位置(斜線部分) 78
- 現生のボラ骨3種の主鶴巣骨の内面  
および舌顎骨との関節部分の突起との比較 78
- トビエイ科エイ類の歯板 82
- マダラトビエイ属 (A) 背面, (B) 腹面 82
- メジロサメ裏 82
- オオノガイの殻の大きさ 86
- チリメンユキガイ化石産地 88
- チリメンユキガイの殻の大きさ 89
- チリメンユキガイ層の状況 (I13グリッド) (1:10) 91
- チリメンユキガイ指向分布 102
- 第15次調査 花粉ダイアグラム 104-105
- 第14次調査 硅藻ダイアグラム 126-127
- 第15次調査 硅藻ダイアグラム 128-129
- 粒度分析結果(重量比) 163
- 全試物・重版物組成 164
- 火山ガラス屈折率測定結果 165

### 第四章 挿図

- 古大阪平野の時代(約2000年前) 173
- 河内湾Ⅰの時代(約6000年前) 173
- 河内湾Ⅱの時代(約4500年前) 174
- 河内湾の時代(約2500年前) 174
- 河内湖Ⅱの時代(約1600年前) 174
- 第14次調査地點 縦括図 175-176
- 河内湾沿岸と豊中の主要構文中期遺跡 177
- 穂積遺跡周辺の自然復元 178

### 第五章 挿図

- 現地説明会会場の導線 184
- 標本カード 186

### 第六章 挿図

## 写真図版目次

\*灰色数字はカラー写真

### 卷首原色図版

1. オオノガイ群生（第14次第95層付近）  
チリメンニキガイ群生（第14次第93層付近）
2. 海成層断面（第14次）
3. 産出貝化石（第14次）  
遊泳中のメジロザメ属（*Carcharhinus sp.*）
4. 魚時代出土遺物（第14次）

### 第Ⅰ章 写真

1. 地層の検討 3
2. 貝化石の取り上げ 3
3. 現地説明会 体験発掘会場 3
4. 説明に聞き入る市民 4

### 第Ⅱ章 写真

1. マチカネワニ（全身骨骼模様） 9
2. 第18次調査 鋼鐵未成品出土状況 13
3. 第1次調査 形象埴輪出土状況 14
4. 第23次調査 墓敷地と区画溝 15
5. 第21次調査 「面白い場」断面 15

### 第Ⅲ章 写真

1. 調査前の状況（第14次） 19
2. 試掘調査状況（第14次） 19
3. 機械掘削状況（第14次） 20
4. 機械掘削状況（第15次） 20
5. 19グリッドでの試料採取（第14次） 22
6. 14グリッドでの試料採取（第14次） 22
7. 第15次調査地点での試料採取 22

### 第Ⅳ章 写真

1. 基本層序第Ⅲ層（稜積第C層対応） 39
2. 基本層序第Ⅳ層（稜積第G層対応） 39
3. 基本層序第Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ層上部 40
4. 基本層序第V層中の生物擾乱 40

### 第Ⅴ章 写真

1. 田水遺構（第14次） 48
2. 番池状遺構（第14次） 48
3. 番池状遺構断面 48
4. 土坑断面（第14次・C13グリッド） 48
5. 土坑完壁状況 48
6. 自然流路検出状況（第14次・A1グリッド） 49
7. 弥生後期壺出土状況 49
8. 溝・ピット（第14次・A1グリッド） 49
9. ピット1（S-P-1）断面 49
10. 弥生前期壺（第14次・A1グリッド） 58
11. 弥生前期壺（第14次・A1グリッド） 58
12. 弥生後期壺（第14次・A1グリッド） 58

13. 基本層序第Ⅲ層遺物1（円筒埴輪） 59
14. 基本層序第Ⅲ層遺物2（中世以降） 60

### 第VI章 写真

1. 繩文中期漆鉢 74
2. 土器片錐（表面） 75
3. 土器片錐（裏面） 75
4. 打製石器・切り石錐 76
5. 横文後期末・晚期出土遺物（C13グリッド） 76
6. 出土したボラの主鱗蓋骨と下顎蓋骨 78
7. 現生のボラ全身、大阪市堂島川岸 78
8. 出土したボラの主鱗蓋骨の内面および舌側骨との間接部分の突起（矢印） 78
9. 出土したマグラビエイ属の一種の下顎骨（A）咬合面、（B）舌側面 81
10. 游泳中のマグラビエイ（体盤幅約1m） 81
11. ナルビエイ背面（体盤幅約40cm） 81
12. 出土したトビエイ科の一種の中央歯（A）唇側、（B）舌側 81
13. 出土したメジロザメ属の一種の右上頬歯（A）唇側、（B）舌側 81
14. 産出化石1 92
15. 産出貝化石2 93
16. 産出貝化石3 94
17. 細皮動物化石 96
18. ボラの鱗蓋骨出土状況 97
19. エイの歯産出状況 97
20. サメの歯産出状況 97
21. サルボガウイ（生息姿勢） 97
22. タイラガウイ（生息姿勢） 97
23. マテガウイの生痕 97
24. 穿孔貝の生痕 98
25. シカシカシヒンニ産出状況 98
26. ハスノハカシバンヒニ産出状況 98
27. サンショウウニ産出状況 98
28. 産出花粉（第14次-1） 111
29. 産出花粉（第14次-2） 113
30. 産出花粉（第14次-3） 115
31. 産出花粉（第14次-4） 117
32. 産出花粉（第15次-1） 119
33. 産出花粉（第15次-2） 121
34. 産出花粉（第15次-3） 123
35. 植物遺体 124
36. 産出珪藻（第14次-1） 141
37. 産出珪藻（第14次-2） 143
38. 産出珪藻（第14次-3） 145
39. 産出珪藻（第14次-4） 147
40. 産出珪藻（第14次-5） 149
41. 産出珪藻（第14次-6） 151
42. 産出珪藻（第14次-7） 153
43. 産出珪藻（第15次-1） 155
44. 産出珪藻（第15次-2） 157
45. 産出珪藻（第15次-3） 159
46. 産出珪藻（第15次-4） 161

47. 植物遺体の産出状況 (DL3グリッド) 162
48. 試料番号102下の火山ガラス 163
49. 試料番号102下の褐色火山ガラス 165
50. 試料番号102下の重鉱物 1 165
51. 試料番号102下の重鉱物 2 165
52. 試料番号102中の火山ガラス 166
53. 試料番号102中の重鉱物 1 166
54. 試料番号102中の重鉱物 2 166
55. 試料番号102中の重鉱物 2 166
56. 試料番号102上の火山ガラス 166
57. 試料番号102上の重鉱物 1 166
58. 試料番号102上の重鉱物 2 166

#### 付章 写真

1. 説明会場交付のようす 183
2. 貝や地層の説明風景 183
3. 長靴着用の参加者 183
4. 体験発掘会場への移動 183
5. 開始直後の発掘風景 184
6. 混乱する発掘会場 184
7. 丁寧に発掘する 184
8. 貝化石はここに? 184
9. 貝化石を手に添へ 185
10. 水で泥を落とす 185
11. 幼い子どもも嫌がらない 185
12. 貝の名前をさがす子どもたち 185
13. 標本カードに記録 186
14. 買問コーナーでのやりとり 186
15. 水管はこんなに長かった! 187
16. 遺物や化石の展示 187
17. 貝化石を観察する子ども 187
18. 積極的な質問にたじたじ 187

## 表 目 次

### 第Ⅳ章 表

1. 第14次調査地点調査区西壁断面土色・土質 31

### 第Ⅴ章 図

1. 分析試料の対照 63
2. 分析試料の粒度組成 64
3. 産出頻度の低かった花粉タクサ (第14次) 106
4. 産出頻度の低かった花粉タクサ (第15次) 107
5. 産出頻度の低かった珪藻タクサ  
(第14次-1) 131
6. 産出頻度の低かった珪藻タクサ  
(第14次-2) 132
7. 産出頻度の低かった珪藻タクサ  
(第14次-3) 133
8. 産出頻度の低かった珪藻タクサ  
(第14次-4) 134
9. 産出頻度の低かった珪藻タクサ  
(第15次-1) 135

10. 産出頻度の低かった珪藻タクサ

(第15次-2) 136

11. 環境指標種群 (第14次) 140

12. 生息環境の塩分濃度にもとづく

珪藻分類群の区分

(生態不明の7種を除く・第15次) 154

13. 年代測定試料一覧 168

## CONTENTS

### Foreword

*Yuji Kuribara*

### Explanatory notes

## Chapter I Preface 1

*Tsutomu Ino*

## Chapter II Environment and historical setting of the site

1. Geological environment of the site 7  
*Takayoshi Nasu*

2. Historical setting of the site 11  
*Atsushi Shimizu*

## Chapter III Background and progress of the research

*Atsushi Shimizu*

1. Background of the research 19
2. Progress and method of the research 20

## Chapter IV Stratigraphy

*Takayoshi Nasu · Atsushi Shimizu*

1. Stratigraphy at the central part of the site 25
2. Stratigraphy at research sectors 14 and 15 33
3. Stratigraphical standard of the site 37

## Chapter V Features and remains from the Yayoi to the Edo Period

*Atsushi Shimizu*

1. Features 43
2. Remains 51

## Chapter VI Research of the marine sediments during the Jomon Period

1. Analysis of grain size 63

*Atsushi Shimizu*

2. Remains of the Jomon Period 71

*Atsushi Shimizu*

3. Faunal remains

- 1) Osteichthys 77

*Kiyotaka Hatooka*

- 2) Chondrichthyes 79

*Kiyonori Nishida*

- 3) Mollusks(Shells) 83

*Hisao Ishii*

- 4) Other Invertebrates 96

*Hisao Ishii*

4. Plant remains 99

*Atsuhiko Mizutani*

5. Analysis of pollen and diatomite 100

*Toshikazu Goto · Akira Shimizu · Atsuhiko Mizutani*

6. Analysis of volcanic ash 163

*Kyoko Kataoka*

7. Radiocarbon dating 167

*Atsushi Shimizu*

## Chapter VII The Hozumi Site and the Toyonaka area during the Jomon Period

*Takayoshi Nasu · Atsushi Shimizu*

171

## Appendix Open day at the Hozumi Site 181

*Atsushi Shimizu*